

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

2025年のできごと

1月	・新年スタート、新春のつどい各地区で開催される
2月	・医師団会議 ・組合員活動交流集会
3月	・新入職員オリエンテーション開催
4月	・新年度スタート ・選定療養費変更 ・脊椎脊髄外科開設
5月	・医療生協総代会議案書説明会
6月	・医療生協通常総代会
7月	・九州沖縄ブロック組合員交流研修会
8月	・原水爆禁止世界大会参加
9月	・組合員活動交流集会
10月	・まちかど健康チェック
11月	・組合員つながり強化月間スタート(11月末まで)
12月	・NAHAMARASON救護班派遣

年末年始外来休診のお知らせ

12月29日(月)午後より救急診療体制となり12月30日(火)～1月3日(土)は外来休診となります。また、1月4日(日)までは救急診療体制となるため、通常的外来診療は1月5日(月)からとなります。なお、当該期間の救急は終日、受付けております。

12/29 (月)	12/29 (月)	12/30 (火)	12/31 (水)	1/1 (木)	1/2 (金)	1/3 (土)	1/4 (日)	1/5 (月)
午 前 通常 診療	午 後 救急 診療	年末年始のため外来休診 (救急診療)					救急 診療	通常 診療

小児科外来体制表

○外来体制表(2025年12月1日～)
紹介・予約患者のみとなります。

	月	火	水	木	金
午 前	(紹介外来) (アレルギー外来) 尾辻健太	(紹介外来)	(紹介外来)	(紹介外来)	(紹介外来) (2・4週アレルギー外来) 尾辻健太
午 後	(予約外来) 比嘉千明 (アレルギー外来) 尾辻健太 (アレルギー外来) 雨積涼子 (アレルギー外来) 雨積涼子	(アレルギー外来) 仲西大輔 (予約外来) 雨積涼子 (第4週 乳健) (予約外来) 安藤美恵 (ワクチン外来) 川出博江	(アレルギー外来) 尾辻健太 (予約外来) 長嶺健次郎	(アレルギー外来) 尾辻健太 (予約外来) 比嘉千明 (1ヶ月健診) 交 代 (神経外来・月3回) 大見 剛	(内分泌外来) 長嶺健次郎 (アレルギー外来) 仲西大輔

《診療開始時間・受付終了時間》 午前:9:00～11:30 午後:13:30～16:30

とよみ生協病院 小児科外来体制表

9:30～11:00 一般外来(予約なし・紹介なし)

	月	火	水	木	金	土
午 前	川出博江	川出博江	安藤美恵	川出博江	安藤美恵	予約外来

・都合により休診になる場合があります。
・受診患者さんが多い場合、人数制限のため早めに受付を終了することがあります。

リハビリ科外来体制表

2025年11月からの外来体制です。

	月	火	水	木	金	土
午 前	喜久村かおり		喜久村かおり		喜久村かおり	

《診療開始時間・受付終了時間》 午前:9:00～12:00

※予約制となっております。

病院の
活動状況
<2025年10月度>

- ・外来一日平均患者数:239人(前年同月比 -63人)
- ・入院一日平均患者数:256人(前年同月比 -7人)
- ・組合員利用分量(率):62.0%(前年同月比 +7.9%)

救急から見た高血圧 ― 命を守るために、今できること ―

いっしょに 226 救急科より



令和3年の沖縄県の救急搬送データによると、急病搬送のうち脳疾患が約7%、心疾患等

が約9%で、計約15%(7,126人)を循環器病が占めています。

当院救急外来でも、突然の脳卒中や心筋梗塞で運ばれる患者さんを日々多く受け入れていますが、その背景には「高血圧」が潜んでいることが少なくありません。高血圧は自覚症状が乏しく、気づかないうちに血管を傷つけ、命に関わる発作を引き起こす「沈黙の病」です。

今年度に改定された高血圧管理・治療ガイドライン2025では、年齢に関わらず診察室血圧130/80mmHg未満、家庭血圧125/75mmHg未満が目標とされています。減塩や運動、体重管理、禁煙などの生活改善と、目標を達成するために必要十分な薬の継続で、これらの心血管イベントは大きく減らせます。

万が一発症しても、当院では救急科、循環器内科、心臓血管外科、脳外科、脳卒中内科が緊密に連携し、救急から回復期まで一貫した医療体制で治療にあたっています。

救急の現場からお伝えしたいのは、「発症前に防ぐことが最良の治療」ということです。日々の血圧管理で、未来の救急車を減らしましょう。

救急科医(副院長) 伊良波 禎

第1回 中間管理者研修に参加して

厳しい状況の中だからこそ、どのように前を向いて進むか？後ろ向きにならず、踏ん張りながら高みを目指すこと、そして職員一人ひとりが力を合わせて乗り越えていくことの大切さを考える機会となりました。

講師に大山美智代氏をお迎えし、「中間管理職(リーダー)としての役割」について学びました。

数多くの学びがありましたが、特に印象に残ったのは「自分の印象は自分で管理する」という言葉です。これまであまり意識していませんでしたが、リーダーとしてとても大切なことだと感じました。

「リーダーとしてのコミュニケーション」については、グループワークを通して楽しく学ぶことができ、同時にその難しさや奥深さも実感しました。

他部署・他施設の管理者が一堂に会し、同じ方向を向いて学ぶ貴重な時間となりました。

これからも職員一同、力を合わせて地域の皆さまとともに歩み、より良い医療の提供に努めてまいります。

4階病棟南 師長 辺土名 ひとみ



お知らせ CSセットの担当者が変わりました

12月より入院(CS)セットの案内会社、エランの窓口担当者が公文(くもん)さんより安里さんへバトンタッチすることになりました。



「折り紙のお姉さん」の愛称で組合員、職員にも親しまれてきた公文さん、3年間で数々の作品を院内のあちこちに癒しを届けてくれました。ありがとうございました。

総合案内 大田 明子



当院で出生したBabyの写真です



宮城葵ちゃん



国仲雅斗ちゃん

Instagramやってます
@okikyo.sanka



私の部署のいいところ★

血液浄化室



血液浄化療法室は、ICU・HCUの一角にある小さな部署です。疾患の治療、手術、検査目的で入院された患者さんの透析治療を行っています。金城紀代彦先生を中心に、安心・安全な透析治療ができるよう、外来、各病棟、臨床工学室や、様々な部署と連携し協力しています。

地域全体の医療活動を効率よく行えるよう、今後も専門的な治療を継続しながら、安心・安全な医療を提供していきたいと思ひます。

血液浄化室 看護師 米須 静香

委員会活動報告 43.転倒転落委員会



皆様、こんにちは。当院では患者さんが入院される際、入院生活での転倒転落防止策についてご協力のお願いをさせていただいております。ご病気やお怪我、体調不良などで思うようにお体が動かせない場合があります。その際は、無理をなさらずナースコールを押していただき、スリッパやサンダルは滑りやすく脱げやすいため安全でサイズの合った靴をご持参いただく等、ご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。私たちは、1日も早く患者さんがお元気になることを願ひ、これからも安全な療養環境の提供に努めてまいります。

事務局長(医療安全) 仲尾 尚子

感謝状

金城 稲子 殿

あなたは十三年間長きにわたり、病院広報誌「はいさい」へ寄稿され、ユーモアあふれる文章で組合員ならびに職員を笑顔にしてくださいました。その多大なる貢献に深く感謝申し上げます。

令和7年12月1日
沖縄協同病院 広報委員会

後何があっても私はこの沖縄の地を耕し続けるだろう。長い間ご愛読ありがとうございました。

金城 稲子

さて、衣食住で「食」は命に直結する。ハルサーは物価高騰でも土と種があれば生きていける。子育てと同じ育てる苦労があり、収穫の喜びもある。植えたら飢えないし、老いても負われない(背負うものがない)。ハルサーは完璧な職業だ。今離島では集団避難計画が進められているが今後何があっても私はこの沖縄の地を耕し続けるだろう。長い間ご愛読ありがとうございました。

正常に年を取っている証拠だと開き直る。容姿も体力も人並みにそして年齢並みに衰えていることは受け入れるしかない。

それと年を重ねるにつれ好奇心が薄れ書く気力がなくなつた。2カ月前に運転免許の講習にいった。高齢者講習という名前だけでも屈辱なのに両隣の立派な年配のおばさん達と同じ年だと知って落ち込み、とどめに免許証の写真に打ちのめされた。果樹の苗を購入するときは実が付くまで生きていたろうかとしばし考える。幼なじみの友人は白内障の手術後鏡が怖くなつてその後免許証を出すときは親指で顔を隠すという。お互い血管の浮き出た両手の甲に嘆き、

に抵抗はないので自分でタイトルも付けた。文章にはこだわりがある。①1個以上方言を入れること。②動植物名は方言を使う。③ネットからの情報でも「...と言つ」「...のようだ」の乱用は文がうるさくなるので最低限使用する。④2カ所以上クスツと笑うユーモアを入れる。⑤読む気になるかどうかは最後の落ちにかかっている。だが今までに納得のいく文章は数本しかない。連載終了の理由はネタ切れ。それと年を重ねるにつれ好奇心が薄れ書く気力がなくなつた。2カ月前に運転免許の講習にいった。高齢者講習という名前だけでも屈辱なのに両隣の立派な年配のおばさん達と同じ年だと知って落ち込み、とどめに免許証の写真に打ちのめされた。果樹の苗を購入するときは実が付くまで生きていたろうかとしばし考える。幼なじみの友人は白内障の手術後鏡が怖くなつてその後免許証を出すときは親指で顔を隠すという。お互い血管の浮き出た両手の甲に嘆き、

ハルサー
だより

連載の終了に寄せて